

東京都の新たな被害想定について ～首都直下地震等による東京の被害想定～

○ 東日本大震災を踏まえ、現行の被害想定を見直し

- ◆ 客観的なデータや科学的な裏付けに基づき、より実態に即した被害想定へと全面的に見直し（地震モデル、火災の想定手法の改良）

再検証	【首都直下地震】	東京湾北部地震 (M7.3)	首都直下地震防災・減災特別プロジェクトの研究成果を反映し、最新のモデルで検証
		多摩直下地震 (M7.3)	
追加	【海溝型地震】	元禄型関東地震 (M8.2)	大規模海溝型地震の検証
追加	【活断層で発生する地震】	立川断層帯地震 (M7.4)	地下の浅い部分で発生する地震の検証

- ◆ フィリピン海プレート上面の深度が従来の想定より浅いという最新の知見を反映 → 震源が浅くなるため、従来の想定より震度が大きくなる
- ◆ 津波による被害想定を実施 → 過去の記録等で、都内に最も大きな津波をもたらしたとされる元禄関東地震（1703年）をモデルとして検証

○ 想定結果の特徴

- ◆ 最大震度7の地域が出るとともに、震度6強の地域が広範囲に

震度6強以上の範囲は、東京湾北部地震	区部の約7割
多摩直下地震	多摩の約4割
- ◆ 東京湾沿岸部の津波高は、満潮時で最大T.P.2. 61m（品川区）
※地盤沈下を含む。（T.P. = 東京湾平均海面）

河川敷等で一部浸水のおそれがあるが、死者などの大きな被害は生じない

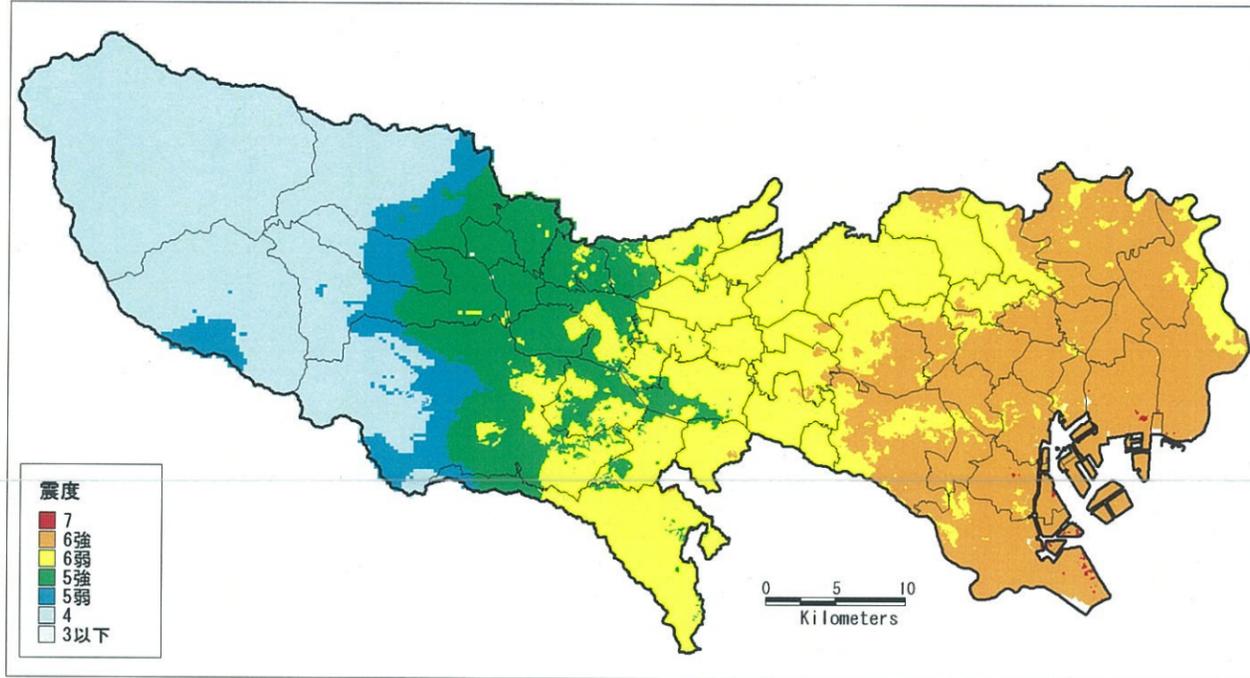
- ◆ 東京湾北部地震の死者が最大で約9,700人

区部木造住宅密集地域で、建物倒壊や焼失などによる大きな被害

震度分布図

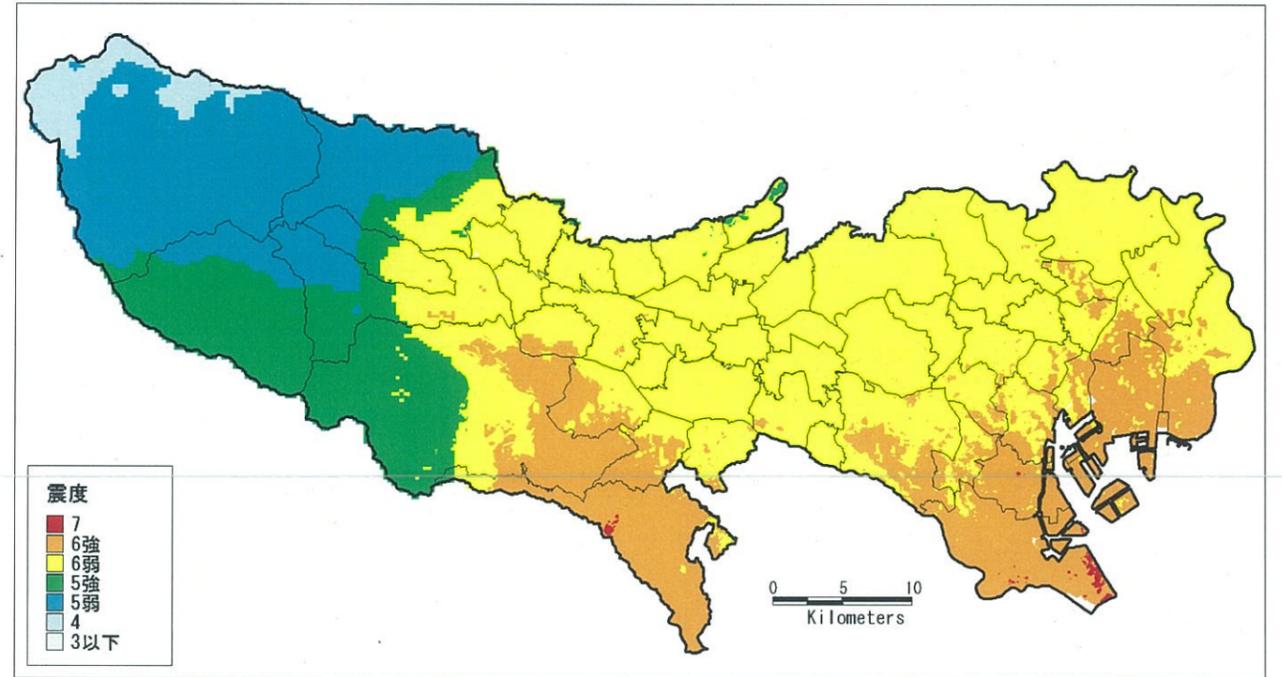
【首都直下地震】

○東京湾北部地震 (M7.3)

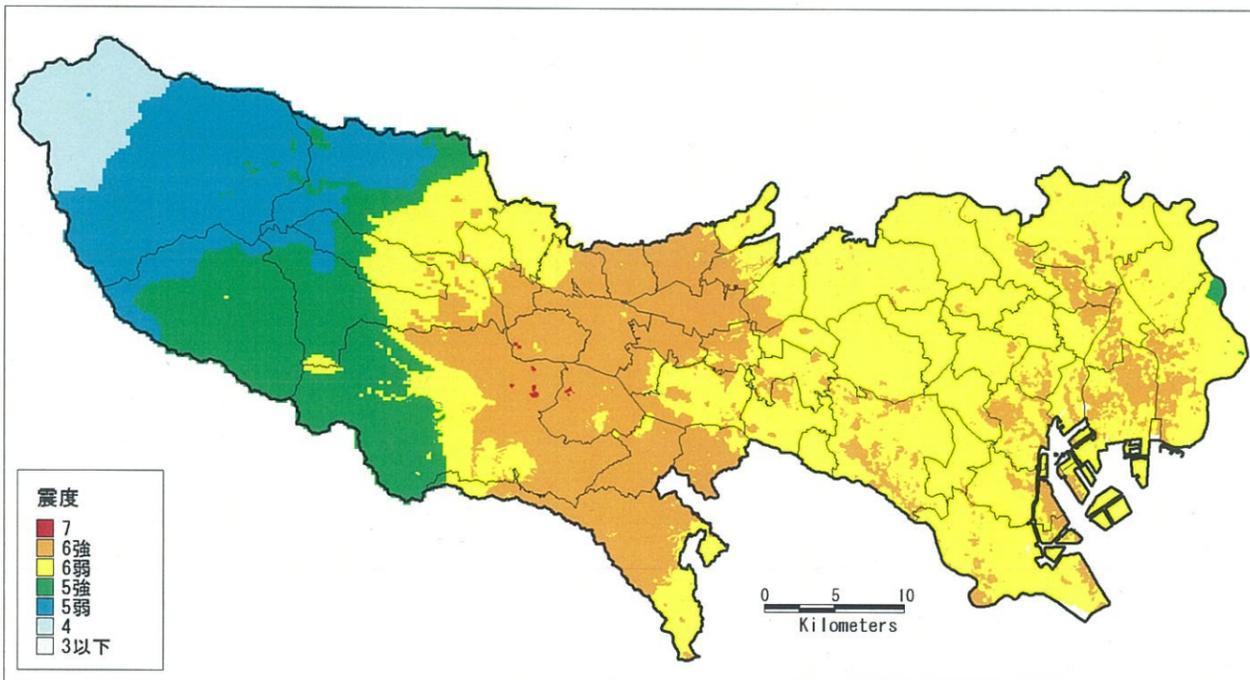


【海溝型地震】

○元禄型関東地震 (M8.2)

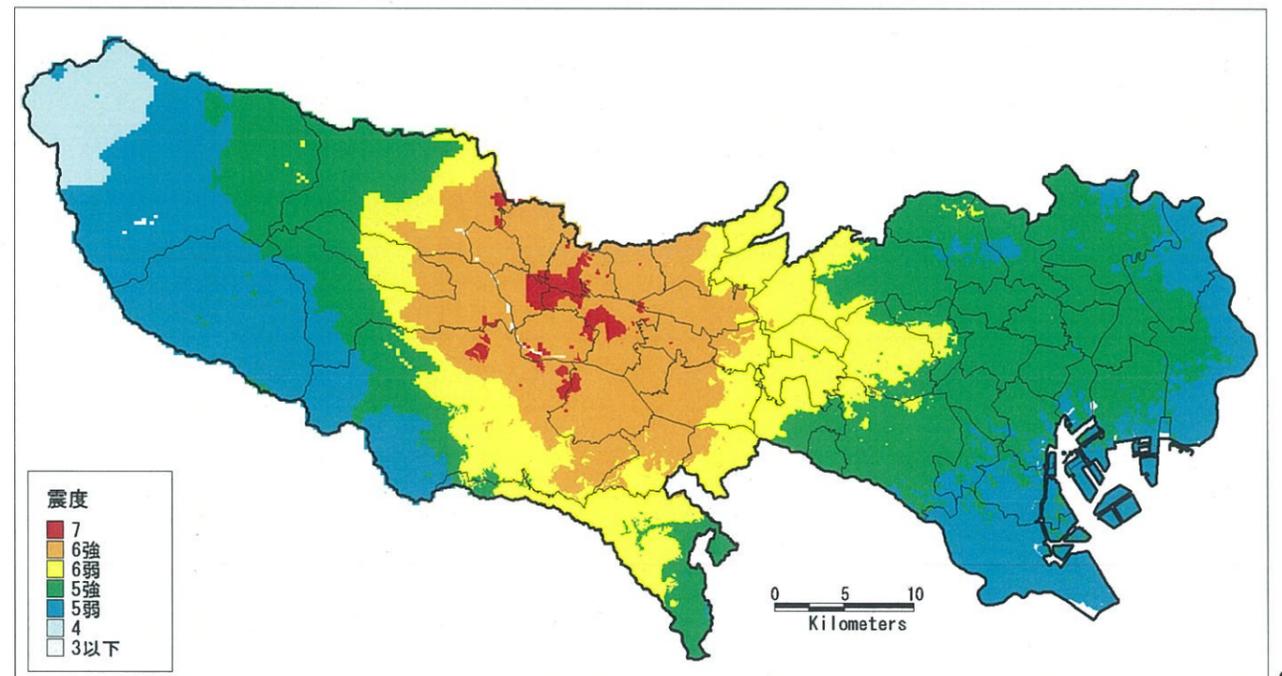


○多摩直下地震 (M7.3)



【活断層で発生する地震】

○立川断層帯地震 (M7.4)



津波高・浸水想定図

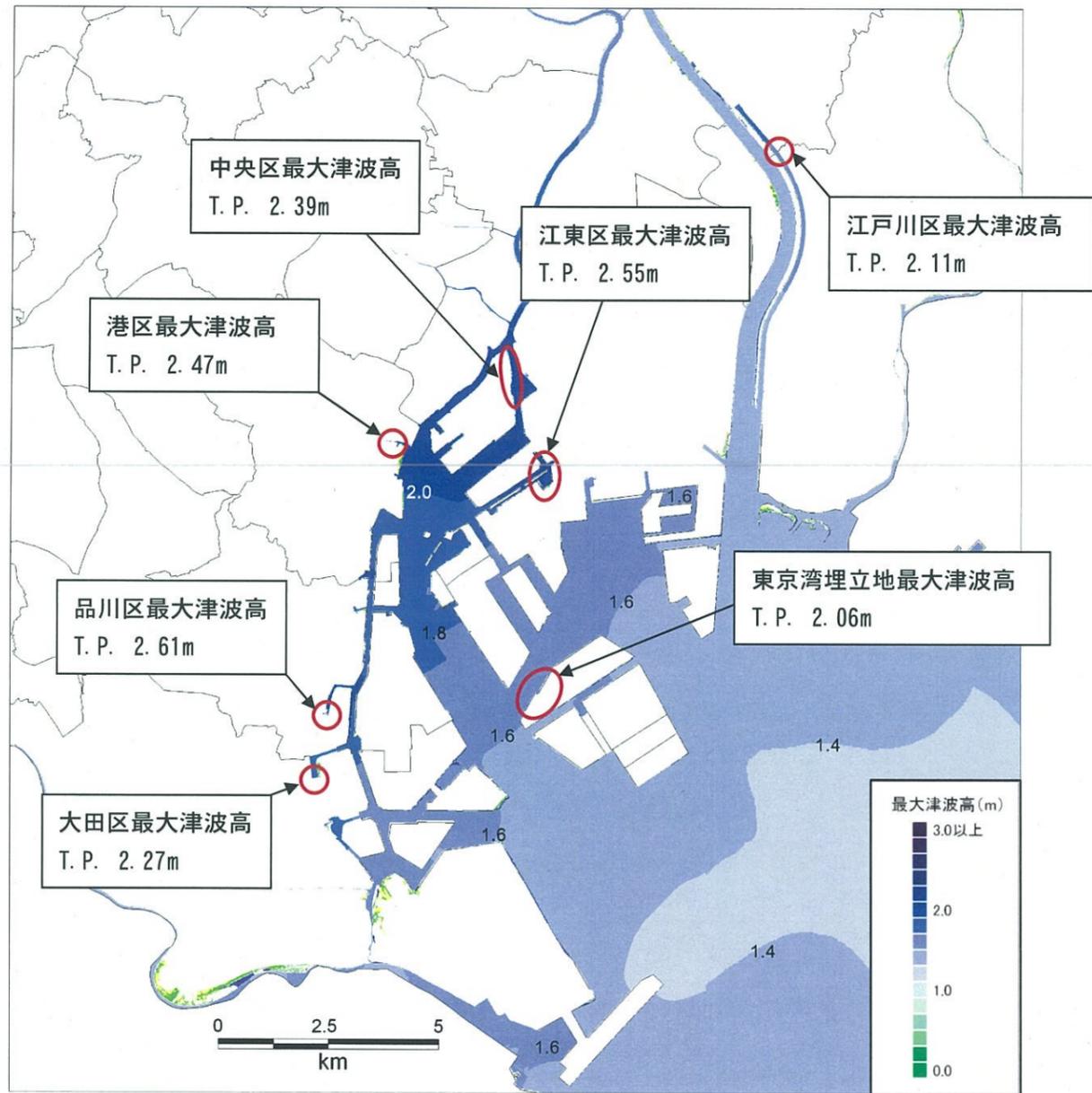


図1 元禄型関東地震の各区における最大津波高とその場所

(津波高は満潮時の値。地盤沈下を含む。)

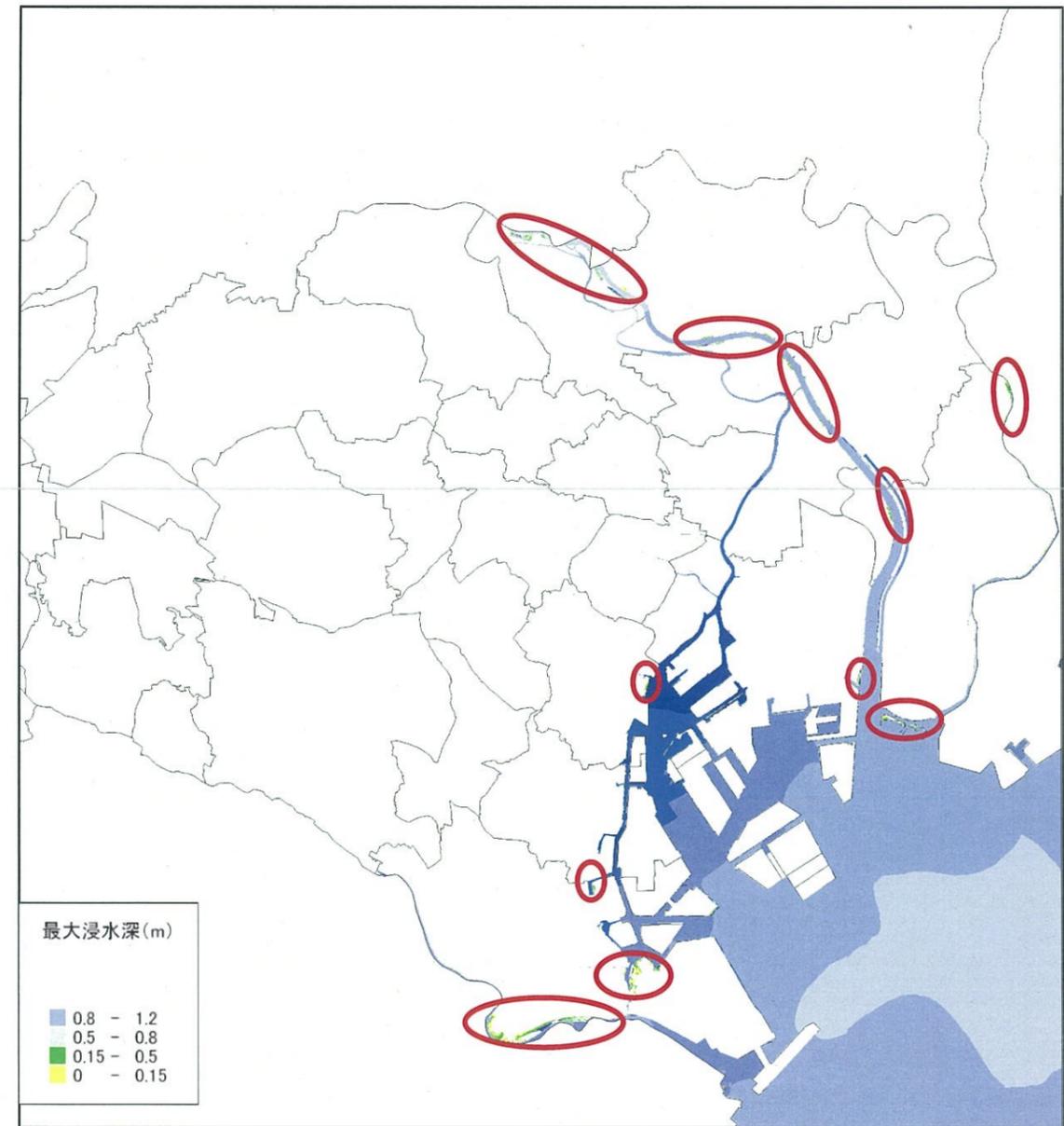


図2 元禄型関東地震の浸水想定図

(水門閉鎖時)

○ 被害の概要 (冬の夕方 18時・風速8m/秒)

【首都直下地震】

【海溝型地震】

【活断層で発生する地震】

東京湾北部地震 (M7.3)

多摩直下地震 (M7.3)

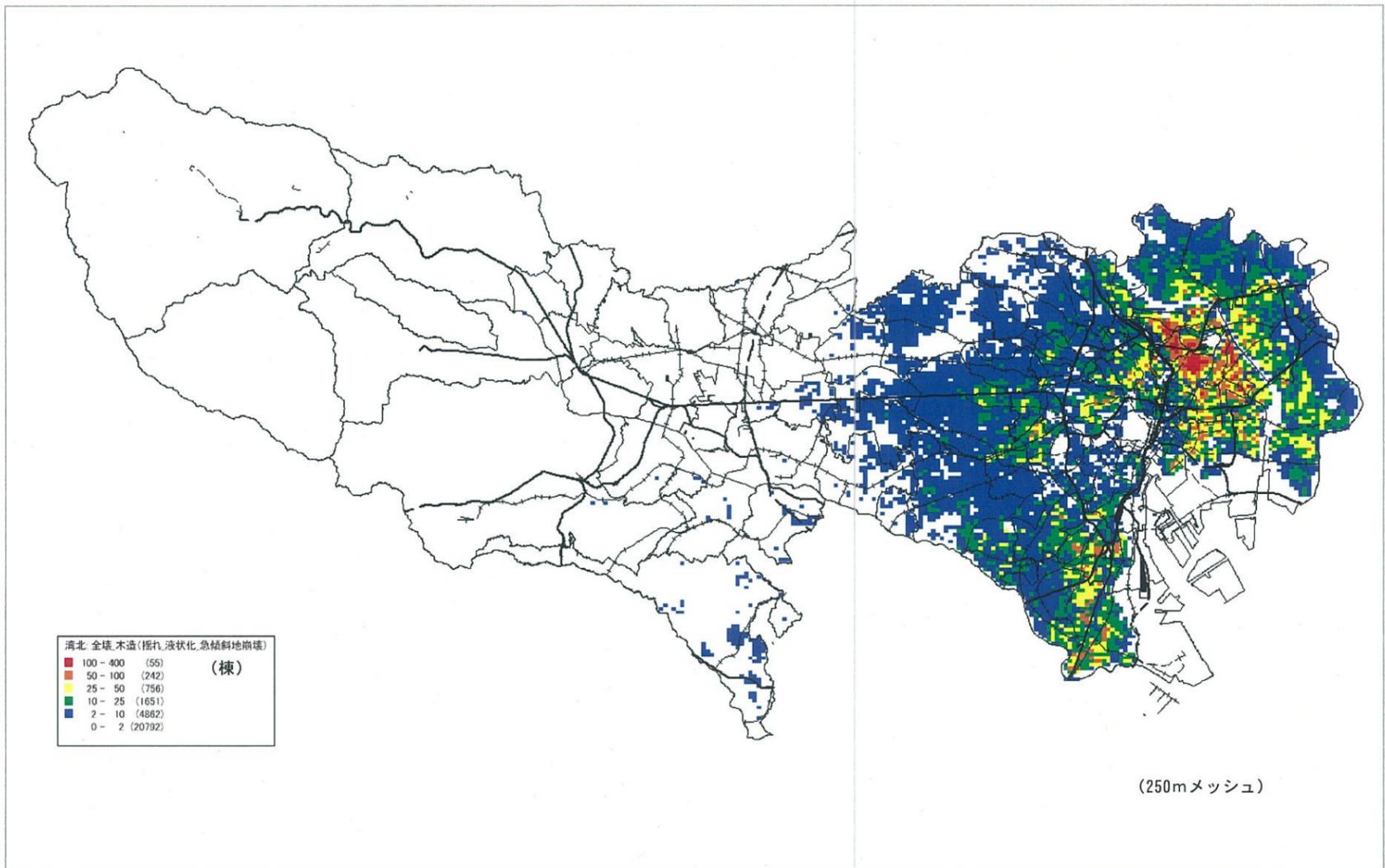
元禄型関東地震 (M8.2)

立川断層帯地震 (M7.4)

被害の種類	原因別	東京湾北部地震 (M7.3)	多摩直下地震 (M7.3)	元禄型関東地震 (M8.2)	立川断層帯地震 (M7.4)
		人的被害			
人的被害	死者	約 9,700 人	約 4,700 人	約 5,900 人	約 2,600 人
	揺れ	約 5,600 人	約 3,400 人	約 3,500 人	約 1,500 人
	火災	約 4,100 人	約 1,300 人	約 2,400 人	約 1,100 人
	負傷者	約 147,600 人	約 101,100 人	約 108,300 人	約 31,700 人
	(うち重傷者)	(約 21,900) 人	(約 10,900) 人	(約 12,900) 人	(約 4,700) 人
	原因別				
揺れ	約 129,900 人	約 96,500 人	約 98,500 人	約 27,800 人	
火災	約 17,700 人	約 4,600 人	約 9,800 人	約 3,900 人	
物的被害	建物被害	約 304,300 棟	約 139,500 棟	約 184,600 棟	約 85,700 棟
	揺れ	約 116,200 棟	約 75,700 棟	約 76,500 棟	約 35,400 棟
	火災	約 188,100 棟	約 63,800 棟	約 108,100 棟	約 50,300 棟
避難者の発生(ピーク:1日後)		約 339万 人	約 276万 人	約 320万 人	約 101万 人

帰宅困難者	約 517万 人
-------	----------

東京湾北部地震における木造全壊建物棟数の分布（揺れ）



東京湾北部地震における焼失棟数分布（冬 18時 風速 8m/s）（火災）

